

2021年 3月 7日(日) 関東学院教会 主日礼拝 説教要約

説教 「だれでもわたしのもとに来なさい」 マタイによる福音書 11章20-30節 高橋彰

◆悔い改めない町を叱る

20 それからイエスは、数多くの奇跡の行われた町々が悔い改めなかったので、叱り始められた。21 「コラジン、お前は不幸だ。ベトサイダ、お前は不幸だ。お前たちのところで行われた奇跡が、ティルスやシドンで行われていれば、これらの町は過去の昔に粗布をまとい、灰をかぶって悔い改めたにちがいない。22 しかし、言うておく。裁きの日にはティルスやシドンの方が、お前たちよりも軽い罰で済む。23 また、カファルナウム、お前は、

天にまで上げられるとも思っているのか。

陰府にまで落とされるのだ。

お前のところでなされた奇跡が、ソドムで行われていれば、あの町は今日まで無事だったにちがいない。24 しかし、言うておく。裁きの日にはソドムの地のの方が、お前よりも軽い罰で済むのである。」

◆わたしのもとに来なさい

25 そのとき、イエスはこう言われた。「天地の主である父よ、あなたをほめたたえます。これらのことを知恵ある者や賢い者には隠して、幼子のような者にお示しになりました。26 そうです、父よ、これは御心に適うことでした。27 すべてのことは、父からわたしに任せられています。父のほかに子を知る者はなく、子と、子が示そうと思う者のほかには、父を知る者はいません。28 疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。29 わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの軛を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。30 わたしの軛は負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」

聖書 新共同訳(C) 日本聖書協会 Japan Bible Society, Tokyo 1987, 1988

受難節は「悔い改め」の時であると言います。イエスの宣教の最初の言葉は「悔い改めよ」(4:17)でしたし、それはバプテスマのヨハネの呼びかけた言葉でもありました(3:2)。「~の上に」「~の後に」「~と共に」を意味するギリシャ語の接頭辞「メタ」と、「知性」や「思い」を意味する「ヌース」が結びついた「メタノイア」という言葉です。「思い」を変え、立ち帰って「神と共に歩むこと」(ミカ6:8)を意味します。旧約の七十人訳では神が「心を動かされて思い直され」るのを表わす時にも用いられます(エレミヤ18:7, 8, ヨエル3:7-10他)。思い直す、という意味でも使われます。神の呼びかけを真剣に受け止めて、神の御心にそうように自分の身を献げて応えることを、イエスは呼びかけたのです。そしてそれはイエスご自身を通して、その教えと働きの業(奇跡)を通して神の救いが現わされ示されたのです。

しかし、今日の箇所ではイエスは悔い改めない町々を厳しく叱り始められました。コラジン、ベトサイダはイエスと弟子たちが宣教活動をされたガリラヤ地域の町です。ティルス、シドンは地中海に面した港町で旧約で裁きを受ける町として何度も記されます(イザヤ23章, エゼキエル26, 27章など)。カファルナウムはイエスが「自分の町」(4:13, 9:1)として大切にされた拠点の町です。ソドムは神の裁きが下された町(創世記19)としてイエスの時代には滅びて失われた地でした。ガリラヤの町々はイエスによって神の力ある業(奇跡)が示されたのに(9:35)、神のしるしとは認めずその証人とならない。神に立ち帰るよう恵みの言葉で呼びかけられたのに、それらを重く受け止めず、その声に応えず悔い改めない。だからお前たちへの裁きはソドムが受けたよりもっと厳しいと言われるイエスの叱責は福音書でのイエスの言葉の中でも最も厳しい言葉です。奇跡はイエスが何者であるかを説明するものではありません、しかし神の力ある業を通して人びとは驚き、この方はいったいどなたなのだろうとイエスを問う、そのことが悔い改めへと導かれるのです。

「不幸だ(災いだ)」(11:20)という言葉は「ウーアイ」という叫びのような言葉です。ああ何ということだと、イエスは呻かれたのです。そしてこの切なる嘆き、呻きは、十字架へと繋がっているのです。イエスは悔い改めず立ち帰れない者たちが滅びるのをただ嘆いて傍観されたのではなく、深い憐みによって心燃やされ、ご自分の行く道を重ね合わされて、共に負われたのです。それが「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」と叫ばれた姿ではなかったでしょうか。まさに人の救いのために神が思い直されたと言語の旧約の預言、へりくだって神と共に歩めと呼びかけた預言は、ご自身がへりくだって苦しむ者と共なる者となられて苦しまれた救い主イエスの十字架において、実現されたのでした。

深い嘆きと叱責の言葉に続いてイエスの祈りの言葉があるのも意味深いです。嘆きに終わらず、神をほめたたえ、神を認めて父よと呼びかけ、その深い交わりを告白(10:32「言い表す」)しています。父の他の子を知る者はいない。十字架に歩まれるイエスのことを救い主だとは人びとはわからなかった。弟子たちでさえ見捨てて逃げてしまった。しかし、「子と、子が示そうと思う者」は父なる神を知ることができる。主イエスはそのようにして、人びとを神の許へと招かれます。十字架は人の罪と苦しみのもっとも悲惨な姿でした。しかしイエスは両手を広げた姿をさらされながら、神を知り、神を信じるようにという神の招きとなられたのでした。疲れた者、重荷を負う者は皆わたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。軛は二頭の家畜の首にかけて畑を耕す作業をさせるための道具です。重荷は律法ともみなされました。律法の重荷に苦しむ民をイエスは憐れられました。しかし神に従う歩みは、イエスと共に負う(生きる)時に、苦しむものでなく、安らぎを得られ、生きる支えと勇気を与えられるものになるということです。十字架を負われたイエスの内にわたしたちは神の救いの業と呼びかけを知るのです。